



広報

イキシア

2025年5月

98号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっと思心を集めるように
なつたこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

『事業計画を託す』

理事長 寺田 一郎

二〇二五年度が始まりました。その事業を取り巻く社会環境は深刻です。

まず、物価問題があります。

二五年度は、引き続き二%超の物価上昇率が見込まれています。ここに生鮮食品の値上がり、ガソリンや電気・ガスの負担軽減策の廃止が加わるので家計にも事業所にも負担が大きくなります。

賃金の引き上げ

次に賃金の引き上げ問題があります。政府は民間会社毎に毎年賃金の引き上げを呼び掛け、今年も春闘では満額回答企業が相次いでいます。賃金の大幅な引き上げの原資として価格転嫁が言われています。価格転嫁は即ち物価上昇をもたらします。また、産業界、特に中小企業では価格転嫁が大きな課題となっています。

障害福祉分野では価格への転嫁に相当するものは、サービス報酬単価の引き上げです。その見直しは二年前に行われましたが、賃上げに寄与するものではありませんでした。今年も財源がない中で賃上げを検討することになります。

意識改革

人口減少と高齢化、価値観の多様化が進む中で、福祉事業をはじめとするエッセンシャルワーカーの不足は続くことが見込まれます。それは必ずしも賃金問題ではないところにも原因があるようです。

政府は雇用の流動化を促しています。積極的な転職とリスキリングが中心のように思います。結果として、建設業や農業、飲食店、福祉事業などでは人手不足が深刻になりました。農業でも飲食店でも専門的スキルが低下しているのはさらに問題です。雇用の流動化によって、人材の偏りも顕著になりました。さらに退職金課税問題が提起されることが有利ではないというメッセージです。

人にはそれぞれ適性があるにも関わらず、煽るサイトも多く、それに乗せられる人たちが大勢います。このように考えると、伝統的な年功序列型雇用制度での事業運営も見直しが必要になるのかも知れません。

年功序列型と対極にあるのがジョブ型人事制度です。従業員の仕事の内容や業績に応じて報酬やキャリアパスを決定する制度で、従業員のモチベーション向上や生産性向上が期待されるということです。果たして日本の福祉分野でジョブ型が根付くのか。労働者、行政、事業者、多分野での根本的な意識改革が必要となるでしょう。

ハイキュー!!効果

最近、『ハイキュー!!』(古館春一著)という漫画が大人気というところで、私も職員から借りて読んでいます。登場人物がたくざんいるのと、文字が小さいことで読むのに苦労しています。

高校のバレーボール部が舞台です。そこでは若い個性がぶつかり合います。しかしそれでは試合に勝てないこと、勝つためには皆が個性を発揮しながら互いにカバーし合うこと、それがチームワークだということを体験します。そして「チームワークは気持ちがいい!」ということを実感し成長していきます。

他者とぶつかり合うことを

避ける傾向のある現代人にとって強いメッセージになっているのだと思います(個人的な感想です)。

これはワナーホームの運営にも当てはまります。いろいろな経験の末にワナーホームにたどり着いた職員、利用者が本心に「気持ちのいいチーム」になったとき、ワナーホームも最大の力を発揮できると確信しています。

最終章として

地域では福祉事業所の開設が相次ぎ、自治体の障害福祉計画を遙かに超える設置数となっている自治体も少なくありません。

また、国や自治体からは、災害対策、虐待防止、身体拘束の適正化などについて、一層詳細な計画と実践が求められています。

ワナーホームでは、これらの様々な要素を取り入れた中期的な事業計画を作成することとしました。地域のニーズ、人材の充足状況などによつては柔軟に対応することを想定していますが、全ては「気持ちのいいチーム」に託すことにします。その方向性を作るのが今の私の役割ですが、その役割も最終章に差し掛かりました。



ケア付き共同住居
共同生活援助
(日中サービス支援型、
介護サービス包括型、
短期入所(単独型))

本部拠点 (居住系事業所)

二〇二五年度 事業計画

今年度の居住系は、地域との連携強化に重点をおき、事業運営を行います。①協定締結医療機関との連携による感染症対策の強化、②地域連携推進会議の開催、③地域行事への参加を行います。

クロワールの定員変更、だいちの建て替えなどの中間計画は継続して検討を行い、本部拠点居住系全体の課題として対応します。

【新ホレブ寮・クロワール・ファミーユ】

新ホレブ寮、クロワールの事業展開は、施設整備の課題を含め、複数年計画に変更しました。特にクロワールは、日中サービス支援型として利用者が安心して生活できる場を提供します。高齢化や内科疾患を抱えた利用者でも地域で生活ができるように訪問診療や訪問看護との協力体制を強化します。ファミーユは、手すりやスロープの整備を行ったことにより、利用者が暮らしやすくなりました。ク

ロワールと交流し、充実した行事を行えるようにします。

【シエスタ・ノバハイツ白里】

シエスタは、山武圏域地域生活支援拠点に登録し、五件の緊急ケースの受け入れを行いました。今年度も地域のニーズにこたえられるよう緊急時の受け入れ体制を維持します。ノバハイツ白里は、事業運営の見直しを行いました。が、落ち着いた環境を希望するニーズにこたえるため、短期入所事業を継続します。緊急受け入れとしてノバハイツ白里を希望される方もいるため、今年度よりシエスタと同様に地域生活支援拠点へ登録を行います。

【だいち】

だいちでは、ホーム毎の行事を行うことで交流を深めています。利用者同士が協力して生活を行い、地域行事への参加を積極的に行います。地域連携推進会議の開催には、地域住民や日頃お世話になっている方にも

参加していただき、利用者がどのような想いで生活をされているのか理解していただけるようにします。

最後に、ホレブ寮とノバハイツ白里職員が合同で年六回の事業所研修を企画しました。介護技術、事例検討などベテラン職員が中心となり、実施します。日頃の業務の中で課題を感じ、全体で解決できるチーム作りを目指します。

(武藤)



山武郡市障がい者 基幹相談支援センター

山武郡市三市三町から委託を受ける基幹相談支援センターは、開設当初の契約が終了し、次の三年の契約期間が始まります。

総合的・専門的な相談では、ニーズや状況も多様で複雑になっている相談への対応はもちろんのこと、地域づくりとしての山武圏域自立支援協議会では、今年度新設される居住支援部会、また十月から開始する就労選択支援の運用の仕組みづくりの協議など、地域の目下の課題に取り組む予定です。

職員体制では従来の職員に加え、新しく入社した相談支援専門員と事務職員を迎え、職員の平均年齢がぐっと若返ったフレッシュなチームで取り組むこととなります。また研修等の事業では、従来通り地域の四法人(福)翡翠会・(医)静和会・(特非)リンク・(有)あいの手介護サービスから専門職員の協力を得て運営します。

(山岡)



本部拠点 (日中活動系事業所)

生活介護
就労移行支援、就労継続支援B型、就労定着支援
相談支援(特定、一般、障害児)
障害者就業・生活支援センター

本部拠点(日中活動系)では、パンプキンハウス(相談支援)、就労継続支援B型、就労移行支援(ワークシヨップしらさと及びワークシヨップおおあみ)、障害者就業・生活支援センター(山武ブリオ)、生活介護(ホレブデイサービスセンター、居住系から組み換え)を実施します。

山武圏域では(他の圏域同様)に障害福祉事業所の設置が急増しています。相談系は二十三か所、就労系二十九か所、日中活動系二十九か所です(二〇二四年十二月)。山武市、東金市、大網白里市での設置が顕著であり、大網白里市内だけでも相談系七か所、就労系七か所、日中活動系六か所です。この三市に九十九里町を加えたエリアがワーカーホーム本部拠点の活動エリアとなります。圏域人口は三市一町で約十七万人、そこに芝山町と横芝光町を加えた圏域人口は約



において日中活動系事業は、本部拠点の収支バランスの鍵を握っています。
(寺田)

二十万人です(二〇二〇年度人口動態調査)。なお、圏域のグループホームは二十七か所、このうち人口四八、〇〇〇人の大網白里市に十一か所があります。人口対比では、それぞれの事業所数が想定数を遙かに上回っています(相談、B型、グループホーム)。従って、利用者の獲得競争は今後激化していくことが明らかです。

このような圏域の状況では、ワーカーホームの事業所としてただけその特長を打ち出せるかが今後の運営に与える鍵となります。本部拠点全体の事業体系の再検討と同時に支援スキルと職員間のコミュニケーション能力の向上も不可欠です。

本部拠点における相談系事業所は、地域に対する窓口として、また圏域を視野にいたれた地域貢献の拠点としての活動が期待されています。十月から開始される「就労選択支援事業」は、ワークシヨップしらさとと山武ブリオの連携で成果をあげることが期待されています。さらに、経営面

柏拠点(柏下)

共同生活援助
短期入所(空床利用型)
就労移行支援、就労継続支援B型、就労定着支援
地域活動支援センター
相談支援(相談支援機能強化・コーディネート事業)(特定、一般、障害児)



柏拠点(柏下)は、二〇〇六年八月のたんぽぽセンター開所から十九年目、二〇一七年十一月に柏市より地域生活支援拠点の指定を受け、運営を開始して八年目を迎えます。日々の活動の中で地域生活支援拠点に求められる役割は年々大きくなっていることを実感しています。その中で、今年度も障害を抱える方

やそのご家族に対して、①④のサービスを提供できる体制を継続します。①安心して相談できる場所(たんぽぽセンター相談)、②日中活動支援(たんぽぽセンター地域活動支援センター)、③居住支援(エクラス)、④就労支援(わたげワークス/ページル柏)。また、柏市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の事務局(たんぽぽセンター相談)としても、精神障害者支援の専門性を活かして、柏の地域作りに尽力します。

今年度の重点的な取り組みとして「拠点体制の強化」「災害対策の強化」「空きスペースの有効活用」です。

△拠点体制の強化▽
今年度は「管理体制の変更」と「役割分担の明確化」を行うことで事業活動の更なる強化に努めます。拠点には現在五十名弱の職員(常勤・非常勤)がおり、一人ひとりが大切な人材です。経験年数が長い職員が多くなってきた一方で、これまで阿吽の呼吸に頼ってきた体制や、個の職員の力に頼ってしまってきたことは課題と捉え、拠点内の役割分担をより明確にし、業務にあたってもらいたいと考えています。また、業務の中

で都度検討が必要な場合は、拠点職員同士のコミュニケーションを密に図って解決をしていきます。

△災害対策の強化▽

柏拠点(柏下)は過去に何度も水害被害を受けていたため、昨年度は水害対策工事(止水板設置等)を実施しました。今年度は柏拠点(柏下)全体会議において災害対策をテーマに、拠点での対応について協議を行う予定です。職員間での連携を深め、災害対策の強化につなげていきます。

△空きスペースの有効活用▽

エクラス北柏一階部分や北柏四丁目物件等、日常で活用しきれないスペースがあります。この空きスペースの有効活用について拠点で積極的に取り組んでいきます。



(上野)

柏拠点(高田)

短期入所(医療型)
生活介護、就労継続支援
B型
放課後等デイサービス
児童発達支援、日中一時
支援
居宅介護、移動支援、訪
問看護、有床診療所

医療的ケアを必要としても
重い障害があっても
安心して育ち暮らせる
そして、働ける未来を目指す



二〇二三年に運営を開始した医療的ケア対応「すくすくハウス」の運営は三年目を迎えます。特に新規に開設した、医療的ケアに対応した就労継続支援B型施設は、

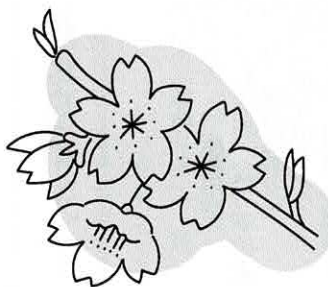
継続支援B型・生活介護・短期入所の安定化、継続課題であった医療的ケアに対応可能な住まいの検討を重点に、持続可能な運営のため基盤整備に取り組みます。

また、今年度は医療的ケアや重度障害児者に対応する診療所を開設します。地域で暮らす障害児者の重度化高齢化に対応するための支援体制整備には不可欠な機能であると考えているため、医療財団法人はるたか会あおぞら診療所のサポートによってスタートし、長期的には自法人で運営できることを目指します。また、柏市には超未熟児や高度な医療に対応する小児専門病院はなく、医療的ケア児の多くが近隣市や都内から退院して地域生活が始まります。その地域移行は徐々に医療的ケア児等コーディネートーターや相談支援専門員の介入によってスムーズになりつつありますが、今大きな不安を感じるご家族も多くいます。そういったご家族やお子さんへのフォローアップ機能としての役割を果たすためにも、専門医療機関との提携(NICUフォローアップ外来の開設)

なども徐々に検討してまいります。

また、医療的ケアを必要とする、特に障害児に対応する相談支援体制の構築については、長期的な課題です。まずは基本相談の窓口を地域に開くため、カフェを活用し、スペシャルニーズのある子育てをする保護者・親子向けに子育てカフェを開始します。すくすくのはじまりとなった医療的ケアママサロンが開始したのは二〇一一年でした。十四年が経過し、こども達やご家族を取り巻く環境も、医療的ケアに対する考え方も変わってきました。時代は変わっても、かけがえのないこども達の笑顔や、その救われた命を戸惑いながらも大切に育みたいと願うご家族の想いは変わりません。不安の中にありながら、奮闘するご家族に、寄り添える、ほっとできる場をつくっていききたいと思っています。

(大久保)



安心して大人になれる未来を
みんなと一緒につくっていきます。



千葉拠点

共同生活援助、短期入所
(空床利用型)
就労継続支援B型
相談支援(特定、一般、
障害児)

新規プロジェクトの活動が再開し、下総精神医療センターと土地の賃借について話し合いが始まりました。今後のスケジュールを立て、計画を具体化し準備を進めていきます。事業展開を進めていくにあたり、各事業の運営面を安定させること、事業所内研修、OJTを活用し職員の支援力を高めていきたいと思っています。

引き続き、鎌取相談支援センターで千葉市精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の受託をすることになりました。精神障害者支援、地域移行支援の実績のもと、千葉市の精神障害者支援の促進に向けて、相談支援、生活支援、就労支援を拠点全体で総合的に支援していきます。

【鎌取相談支援センター】

○中核的な役割を担う相談支援事業所として、地域に貢献する。○職員のモチ

ベーションの維持向上に取り組み。③面談室、事務室を確保し、プライバシーの保障や相談支援業務を円滑に行える環境にする。以上三点、重点項目として活動します。

【フジエール】

地域推進連携会議を実施すること、新規事業プロジェクトが再開し、支援内容など具体的に決めていきたいと思えます。利用者支援を丁寧に行い、利用率の安定をさせたいと思っています。新規入居者については、鎌取相談支援センターと連携し対応困難なケースにも対応していきます。そのためには、人材育成、支援スキルの維持向上を取り組んでいきたいと思えます。



【ワークショップ鎌取】

四月一日より定員四十名に変更となりました。面談等で利用者のニーズを把握し意向に沿った支援、就職に向けモチベーションを高める関わりをしていきます。そして、工賃向上に向けて作業に取り組みたいと思えます。



(野老順)

お知らせ

ワークショップ鎌取
(就労継続支援B型)

四月一日より

定員

四十名

となります。

長生拠点

共同生活援助
就労移行支援、就労継続支援B型
地域活動支援センター
相談支援(特定、一般、障害児)
障害者就業・生活支援センター

長生拠点は、四事業所、職員数約三十名のコンパクトな拠点です。職員同士コミュニケーションが取りやすく、顔の見える関係で仕事をしています。どの事業所で、どのような業務に携わっているのか、得意な事、苦手な事は何か等、お互い理解し、協力して業務にあたっています。



この強みを最大限に活かし、事業所運営の効率化・安定化を図り、働きやすい環境・職場づくりを行っていきます。

また、今後の長生拠点の事業展開及び施設建て替え等の検討を行います。

【重点項目】

○長生地域生活支援センター

十月に障害者基幹相談支援センター(長生村を除く長生圏域一市五町合同設置・他法人受託予定)が設置されます。既存の長生村基幹相談支援センターと合わせ圏域内すべての市町村に、障害者基幹相談支援センターが整備されることとなります。委託相談としての役割を整理しながらも(役割分担の明確化)、基幹相談支援センター等と連携を図り、地域づくりと課題解決への取り組みに協力していきます。

○ワークショップ茂原

十月より就労選択支援事業を開始いたします。

作業場面を活用した状況把握(アセスメント)、他機関連携によるケース会議、アセスメント結果の作成、事業者等との連絡調整を行います。障害者本人が就労先・働き方について、より

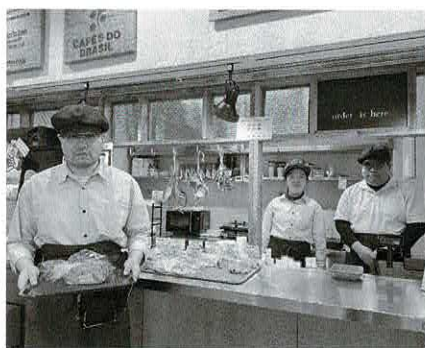
良い選択が出来るようお手伝いいたします。

○ぶらり

地域連携推進会議を実施し(会議七月、見学会二月)、地域との関係づくりの促進を図ります。利用者、ご家族、地域関係者、福祉関係者、市町村担当者等、会議にご参加いただきます。

今年度も、どうぞ、よろしく願います。

(高木)





柏拠点

主任

菅野健一

今年度から主任となりました菅野です。主任としての責任の重さを実感すると共に、大きなやりがいを感じております。

入職してからの十年間、様々な困難がありました。皆様の御協力があったからこそ、乗り越えることができたのだと考えております。

私自身、まだまだ至らない部分もあるかと思いますが、今後も皆様の御協力を頂き、法人全体の発展に貢献していきます。よう努めてまいります。

ご指導の程、よろしくお願い致します。

リーダー



柏下拠点

内木佐知子



柏下拠点

森根靖子



千葉拠点

柏村亜咲里



高田拠点

直江円香



高田拠点

和田 瞳

二〇二四年度所内研修報告

施設長研修

今年度は「創業的体制を守る体制に切り替えなければならぬ(山本七平『帝王学』)」というテーマの下、施設長研修を三回開催しました。各回の目的は、危機管理について、人事労務管理とサービス管理について、人事管理と財務管理について施設長の役割を考えることでした。

二回目は事前課題「普段何をやるべきだと考えているか」によるレポートを下に意見交換をしました。人材育成や定着のためのOJTや、職員の業務分担、責任の明確化などに向けた取り組みが話し合われました。

職員とコミュニケーションを取りつつ、組織としての事業活動にうまく働きやすい仕組みづくりに腐心する他施設長の話を聞くことができました。

研修の参加を経て、職員が仕事にやりがいを感じ、生き生きと活躍できる職場環境づくりをしたいとの思いを強く感じました。

(末永)

ワーカー研修

ワーカー研修①は、「チーム作りについての実践を振り返り、自己検証することで、チーム作りにおける自身の立ち居振る舞いを考える」を目的に実施しました。まず、代表者二名についてバーナード組織の三要素の「コミュニケーション」「貢献意欲」「共通目的」を軸に分類・分析を行い、チーム作りについて参加者全体で考察しました。次に、ワーカー研修②で各自が掲げた「トライすること」について、どの程度取り組めたか、出来たこと・出来なかったことを個人ワークシートにて振り返り、グループワークで報告と意見交換を行いました。

トライすることに十分に取り組めた実感できた職員は多くありませんでしたが、各自がチーム作りにおいてどう立ち居振る舞うべきか、自分のチームはどんなカラーがあるか、その強みや弱みなどを振り返る良い機会となったと思います。

(三好)

世話人・支援員研修

各自が困っていることや悩んでいることを持ち寄り、先輩(世話人・支援員・指導員)の経験談を聴き、各グループで困り事や悩み事などアウトプットし解決策や取り組みを考えた。という目的でおこないました。

前半は先輩職員より体験談をインタビュー形式で話してもらった上で詳しく聞きたいことなどの質問に応じてもうもらいました。

後半はファシリテーターを各グループに配置し普段の業務の中で困っていることや悩んでいること、例えば易怒性の高い利用者の対応に苦慮しているという悩みをグループ内で共有し話し合ったところ、否定も肯定もせず話を聴くという解決策を見出し、各グループともファシリテーターが促すことにより意見交換をしていました。

アウトプットすることも目的の一つであったため、困り事や悩み事他にも、他事業所の業務内容を確認することができました。

(矢部)

研究発表

二月八日(土)

通常業務から得られる情報を基に、グループでテーマを定めて研究・考察し、発表する。

たんぽぽセンター

「相談員ってどこまでやるの?」

すくすく

「すくすくの療育提供における現状と課題」
「多職種での知識の底上げ、質の向上を求めて」

ワークシヨップ茂原

「君たちはどうして通うのか」

ワークシヨップしらさと
ワークシヨップおおあみ
山武プリオ

「就労系事業所の

これから
「利用者の未来に
寄り添うために」



優秀賞

千葉拠点

「フジエールいきいき運動プロジェクト」

研究発表は毎年二月に開催され、各事業所が業務上の疑問点や課題についてテーマに即したデータを収集し、全体で発表します。私が所属する千葉拠点では『フジエールいきいき運動プロジェクト』健康な生活を送るために』というテーマのもと実施しました。本研究は、長期入院を経て退院した方々が、社会参加を促進することによってQOL（生活の質）の向上を目的に行われた運動プログラムです。本プロジェクトでは、週三回の運動プログラム（ボッチャ）を通じて、利用者の身体的、精神的、社会的健康に与える影響を観察しました。その結果、参加者の主観的幸福度が増加し、一部の対象者には日中活動への参加や自主的な外出計画の増加といった積極的な変化が見られました。このことから、運動プログラムが社会参加の心理的負担を軽減し、利用者の主体性を育む一助となったことが推測されます。



(本村)

りました。プログラムの参加率は平均四十七%と低く、全対象者が均一に効果を受けられなかった点は今後の改善課題です。一部の対象者では頓服薬の使用頻度が増加するなど、プログラム参加が精神的ストレスの原因となった可能性も考えられます。これらの結果から、個別の健康状態や心理状況に合った柔軟な対応を検討する必要があります。

研究を通じて得られた知見は、今後のプログラムや、文化的活動の糸口にもなります。定期的かつ多様な取り組みを通じて、利用者同士の交流を深め、社会参加への心理的負担を軽減することが、QOL向上への鍵になると考えています。本研究は小規模な取り組みではありますが、今後も退院者支援の一端として、試行錯誤しながら研究活動を継続していきたいです。



貢献賞

ホレブ寮、ノバハイッ白里、ホレブデイサービスセンター

「認知症のサインを見逃すな」

ホレブ寮、ノバハイッ白里、ホレブデイサービスセンター合同チームは、「認知症のサインを見逃すな」というテーマで研究を行いました。

職員は、利用者の高齢化による認知機能低下を危惧しています。精神疾患と認知症状はどのような関係性があるのか興味をもちました。そこで、利用者に協力をしてもらい、長谷川式認知スケールを使用して、調査を実施しました。

調査結果に加え、精神科薬や入院歴も関係性があるのか徹底的に調べました。仮説では、長谷川式認知症スケールの点数が低い人認知症傾向にある）ほど精神症状も悪化傾向にあり、入院回数が多いと考えていましたが、実際には、点数が高い人（認知症傾向にない）ほど、精神症状の悪化で入院する回数が多いという結果になりました。年齢を重ね、認知機能の低下があったとしても精神症状は落ち着くことが



(中村友)

わかりました。また、入院期間中に長谷川式認知症スケールを実施した利用者が、退院後にホレブ寮の生活を取り戻してきたところに再度調査を行ったところ、点数が高くなっているという興味深いケースもありました。

研究が上手くいかず、資料の作成が遅くなってしまったことは大きな反省点です。調査に協力してくれた利用者、多くのアドバイスをくれた先輩職員のおかげで貢献賞をいただくことができました。精神疾患と認知症状の関係性に結びつく明確な結論にたどり着くことはできませんでしたが、利用者が不安なく過ごしてもらうために、出来ることを奪わないこと、本人のペースに合わせて意思を尊重する支援を継続し、利用者の状況に合わせて職員のスキルアップを行いたいです。

ワナーホームの主な動き

《一月》

- ・二十歳を祝い会／Sandwich Cafe
Patisserie 高田(ペジューブル高田)
- ・初詣レク(ワークシヨップお
おあみ)
- ・正月レク(書き初め・羽根つ
き・ゲーム)／ホレブ食堂(ク
ロワール、ファミーユ)
- ・初詣／玉前神社(だいち)
- ・初詣／白子神社(ホレブデ
イサービスセンター)
- ・初詣／玉前神社(ワークシヨ
ップ茂原)
- ・初詣・新年会／諏訪神社、ま
る笑(地域活動支援センター
たんぽぽセンター)
- ・初詣／東光寺(フジエール)
- ・日帰り旅行／成田山(ゆうゆ
うホーム、ぽこあ・ぽこ)
- ・カフェ体験(わたげワークス)
- ・千葉県障害者就労促進チャレン
ジ事業 企業向け見学相談会／
TTC株式会社(山武プリオ)

《三月》

- ・理事会
- ・花見レク／白子町河津桜で花
見・九十九里ヴィラそとぼう
(ワークシヨップしらさと)
- ・進級お祝い会／すすすすくハ
ウス(すすすすく)
- ・千葉市動物公園に行こう／千
葉市動物公園(長生地域生活
支援センター)
- ・お花見レク『花より団子(おも
ち)』(ワークシヨップおあみ)
- ・お花見／一号館裏大堀川沿い
(地域活動支援センターたんぽ
ぽセンター)
- ・北柏町会主催避難訓練(エク
ラス)
- ・ひな祭り(ホレブデイサービス
センター)
- ・インクルーシブ&サステナビリ
ティ二〇二五外販／アリオ柏
(ペジューブル柏)
- ・花見イベント／焼肉きんぐ我
孫子店(エクラス)
- ・お花見／泉自然公園(フジエ
ール)

《四月》

- ・辞令交付式
- ・入社式(メンバー)／すすすすく
ハウス(ペジューブル高田)
- ・お花見／尼ヶ台総合公園(ホ
レブデイサービスセンター)



イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそ
ご家族及び一般有志からなる
ワナーホームの支援団体で
す。活動においてご理解をいた
だき、ご支援・ご協力を賜りま
す様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(一
月・五月・九月)発行されます。

《会費》

賛助会員 三,〇〇〇円(年)
正会員 一〇,〇〇〇円(年)

収支決算書

自2024(令和6)年4月 1日
至2025(令和7)年3月31日

イキシア会 単位:円

支 出		収 入	
科 目	金 額	科 目	金 額
振込手数料	21,601	会 費	765,000
振込用紙印字サービス料	0	(133名)	
記録用SDカード購入	1,188		
小 計	22,789	小 計	765,000
次期繰越	9,901,084	前期繰越	9,158,873
合 計	9,923,873	合 計	9,923,873

編集後記

新年度がスタートし一ヶ月
が経過しました。新年度スタ
ートは土砂降り雨でした。でも、
晴れた日に桜を見た時、持
ちがほっこりし、新しいス
タートが切れたこと嬉しく思
います。今年も、ワナーホ
ームの活動をお伝えしていきま
すので、イキシアをよろしく
お願いします。

発行所

ワナーホーム
イキシア会

千葉県大網白里市細草3215

電 話

0475-77-2100(代)

U R L

<https://www.wanahome.or.jp>

発行人

寺田 一郎